

3月1日(土)~7日(金)

春季火災予防運動

「消すまでは 心の警報 ONのまま」

空気が乾燥して、火災が発生しやすい季節です。わたしたちの生活の中には、火災の原因となる要素が多数あります。その要素を取り除いて火災が発生しない環境をつくるには、火災予防の知識と備えが必要です。春の火災予防運動が始まるこの機会に、みんなで火災予防に取り組みましょう。



平成25年度防火作品
特選 江坂実秋さん
(刈谷市立双葉小学校1年)

住宅防火 命を守る 7つのポイント —3つの習慣・4つの対策—

3つの習慣

- ①寝たばこは、絶対やめる。
- ②ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ③ガスこんろなどのそばを離れるときは、かならず火を消す。

4つの対策

- ①逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ②寝具、衣類、カーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
- ③火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
- ④お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

つけていますか、住宅用火災警報器

現在、すべての一般住宅に住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。

◆設置が義務づけられている主な場所は

- ・寝室(2か所以上の寝室がある場合は、その部屋ごと)
- ・2階に寝室がある場合は、階段
- ・台所

◆どこで買えるの

近くの家電販売店やホームセンターなどで購入できます。

取り付けたら安心ですか

せっかく住宅用火災警報器をつけても、故障や電池切れでは意味がありません。いざというときにきちんと機能するよう、定期的に手入れや作動確認をしましょう。

点検方法は…

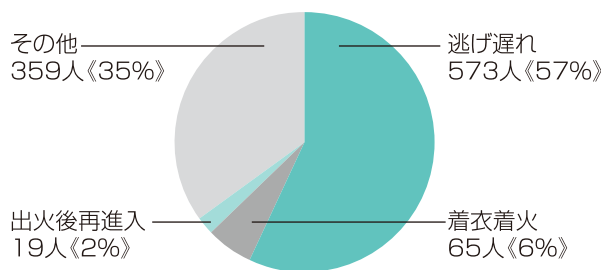
本体からぶら下がっているひもを引くか、ボタンを押すだけ。警報音が鳴れば正常です。(警報音は5秒程度で止まります。)

住宅火災による死亡原因の第1位は「逃げ遅れ」です。

平成25年は管内で239件の火災があり、そのうち住宅火災は51件あり死者は2人でした。

就寝中の火災に気づかずにいたケースがもっとも多いのが特徴です。就寝中は、火災に気づくのが遅れ、気づいたときにはすでに火が回った状態となり、有毒ガスにより、身動きが取れなくなる場合が多いようです。

命を守るうえで火災の早期発見が非常に大切です。その早期発見に一役買ってくれるのが住宅用火災警報器なのです。



住宅火災での死亡原因

(平成24年全国数値 放火自殺を除く。)

◆つけてよかった!住宅用火災警報器

県内では毎年約150件の住宅用火災警報器の奏功事例が報告されています。

- ・子どもの居室から出火! 隣室で就寝中であった母親が住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、いっしょに避難
- ・庭のゴミ箱が放火され、建物に火災が拡大! 住宅用火災警報器の音で目を覚ました家人がバケツで消火

問合せ先 衣浦東部広域連合消防局予防課 ☎63-0136